

2018信州総文祭 一年前イベント 文化活動を全国発信に向けて



制作
長野県高等学校文化連盟
新聞専門部

第4号



第4回信州高等学校文化連盟総文祭
2018信州総文祭
担当：松本県ヶ丘高新聞部 熊澤玲菜・宮下菜々海・岡村まどか

2018年8月7日から11日に行われる2018信州総文祭に向けて7月26日に信州総文祭1年前交流イベント信州(ここ)で出会う交流フェス「国際交流コンサート」が開かれた。イベントでは26部門の代表が集まりホワイエの展示や自分たちが練習してきたパフォーマンスを発表した。

ホワイエの展示

各部門の活動を発表

ステージ発表開始前にはポスターセッションが行われた。ダンス、軽音楽、ボランティス、将棋、文芸、新聞、吟詠、詩舞、特別支援学校などの26もの専門部が参加



お客さんに説明する生徒達

また、会場には「第二次成長機」という女子高生の心情を表したオブリジェもあり、各専門部思い思いに参加した。参加者は「普段関わりのない専門部と交流ができて、とても良い刺激になった」と述べた。

スペシャルゲスト登場



カヤグムの演奏の様子

スペシャルゲストとして韓国梅香女子情報高等学校 伽耶琴(カヤグム)部の皆さんをお招きし、カヤグムの演奏を披露していただいた。同校は世界遺産の敷地内にあり、115

年の歴史を持つ。生徒は第2言語として日本語を学んでいる。カヤグムとは、日本の琴に似た弦楽器で、楽器の右側を膝の上に掛けて右手の指と爪で弦をはじいて演奏する韓国の伝統楽器。伝統衣装のチマチョゴリに身を包んで奏でる優いその音色に、会場にいた全員が聞き惚れた。参加者は、「初めて聞いたが、とてもきれいな音で素晴らしい。もっとたくさんの人に聞いてもらいたい」と述べた。

音楽を通して

コンサートも終盤に近づき、最後の発表となった松本第一高等学校の吹奏楽部では「ルイ・ブルジョア」の「コイ」という讚美歌による変奏曲「と二高劇場」の2作品を演奏した。「ルイ・ブルジョアの讚美歌による変奏曲」はロード・スミス作「最初の曲は華やかな曲で壮大さを感じられた。2作品目は日常生活を再現しているところが面白かった」と語った。



演奏する松本第一高校の吹奏楽部

この部門のなび助は長野県内の高校生と岡学園トータルアカデミーの協力により作成されました。